

安田純矢

14期生 一平成28年度卒
東京農業大学大学院 国際食料農業科学研究科
国際農業開発学専攻 農業環境科学研究室 博士前期課程一年

Life-changing Learnings

人生を変えた、学びの記憶。

個人的な学校だからこそ、
身につけて欲しいこと。

科技校は個人的な生徒が多いです。みんな強い「自分」を持っていきます。この「自分」を大切にしてくれる校風が、科技校の魅力ですね。

大学に四年間通って思ったことは、多くの人は誰かに合わせて生きていくということ。確かに、自分の本心ではなくても誰かに合わせていたほうが楽なときは多々あります。ただ、それで本当に「自分」を持つていけると言えるのか？と私は思います。

大学に入ると「自分」で決めることが増え、個性が重要になってきます。

みなさん、進路を考える前にお互いの「個性」を認め合う気持ちを持ってください。周囲から学び周囲とともに歩む姿勢は、いつか皆さんを支える柱になるはずです。

自分の興味を追い求め、人との交流を通じて学びを深めつつ、国内外を問わず農業分野の研究に尽力。自身の経験をもとに、将来は地域に根ざした企業で活躍したいと考えている。

地域とともに歩む人を目指して

私の専攻は国際農業開発学という、途上国のための持続的な食料生産や、生活についての研究を行う分野ですが、海外ではなく国内に興味を持った私は、山梨県小菅村という多摩川の源流の村で様々なことを学び、現地での活動を通して経験を積んでいきました。農作業やわさび田の修繕を通じた村人の皆さんとの交流や、外国人向け里山教育プログラム、森林ボランティアなどの活動を通して、村民の皆さんとお話をするたびに「源流がしっかりしなければ下流の人たちが困る」という話を多く聞きました。

この瞬間、私は「森は海の恋人」という言葉を思い出し、そのことを授業でお話されていた先生の研究室に入り現在は「マングローブと海の関係」について研究しています。将来は農業・環境系の仕事に就きたいと考えています。国を守る方法を考えるのは官僚や政治家といった方々ですが、実際に行動し主役となって動くのは地域の人です。だからこそ、私は地域に根ざし生産者に寄り添った企業に入りたいと考えております。日本でも海外でも、その考えは変わりません。



NO. 11